



巻頭言

創立30周年を迎えて

友松靖夫 (財)砂防・地すべり技術センター理事長

財団法人砂防・地すべり技術センターは、今年創立30周年を迎えることができました。

創立された1975年(昭和50年)当時、私は建設省河川局砂防課に勤務しておりました。公益法人などほとんどない時代で、身近には国土開発技術センター(現国土技術研究センター)があっただけでした。

砂防や地すべり対策、がけ崩れ対策等に関する研究や、技術開発を行って、その成果を広く社会に提供し、国土の保全と国民生活の安定に資するための公益法人の設立に向けた、当時の砂防部幹部をはじめ、砂防関係者の熱意は大変なものでした。特に砂防の先輩方は、設立に必要な基本財産の確保にご苦勞をいただきました。

そしてこの30年間、建設省やその後の国土交通省をはじめ、地方公共団体の方々、公団関係の方々、あるいは民間企業の方々など、本当に各界、各層の大勢の方々のご指導、ご支援、ご協力をいただきまいました。心から感謝を申し上げます。

この30年間のセンターの成長を樹木にたとえれば、最初の10年は先輩によって種がまかれ、芽が出た後も、肥料をもらい、添え木がされる

など、大勢の人達のお世話になって成長していった時代です。10年目から20年目にかけては、何とか一本立ちができるようになり、根っこも大きく、樹も大きくしようと、役職員全員が懸命に努力した時代でしょう。20年目から30年目にかけて、特にここ5年間は、枝打ちや、下草を刈って、格好の良い、質の高い樹になるよう努力してきた時代です。

さてこれからの10年となりますと、引き続き公益法人改革は進められていくでしょうし、公共事業の減少傾向も今しばらくは続くでしょう。公益法人をとりまく環境変化や、経済動向を含む社会的変化を見きわめながら対応しなければならないでしょうが、成長よりも質を高めるという基本方針は間違いないと思っています。

いずれにしても、砂防・地すべり技術センターの役職員は、公益法人としての役割を引き続き充分認識していくとともに、さらなる研鑽を積んで技術力を高め、組織としても各界からの一層の信頼をいただき、砂防のシンクタンクとしての役割をはたすべく努力を重ねてゆきたいと思っています。

皆様方の一層のご指導ご支援をお願い申し上げます。次第です。